



日誌用

至急極秘

昭和十八年四月

電報
次長宛

三	三	三
二	一	二
〇	〇	〇
九	八	六
三	一	〇
〇	〇	〇

發著受點部

隊參謀長

猛參電第九六一號

「サウモア」方面ノ戰況

「ボブダビ」方面

「ボブダビ」陣地ノ最右翼ハ二十八日之ヲ確保セルモ主陣地ノ恢

復攻撃ハ二十九日薄暮又ハ夜間實施ス

海岸方向ノ敵ハ三又路峠[?]東北方峻線附近ニ數箇ノ陣地ヲ占領シアリ

其ノ右翼ハ我方陣地トノ距離約十五米ニシテ兵力約四〇〇ナリ

歩兵第十五聯隊第一大隊（約三〇〇）ハ二十八日ヨリ右ノ敵ヲ
攻撃セシモ其ノ一角ニ突入シタルノミ

（終）

0155

152

日誌用



電報

次	長	宛	猛	部	隊	參	謀	長
			四	三	一	四	五	〇
			三	三	〇	六	三	〇
			一	一	〇	〇	〇	〇
			〇	〇	九	八	二	〇
			五	〇	五	〇	〇	〇
			〇	〇	〇	〇	〇	〇
			點	受	署	發		

猛參電第八六四號(電註、七月二十九日配布不足ノ分)

昭和一八七三一

(第二項)

約五〇ノ屍體ヲ遺棄敗走セリ

敵ハ目下陣地構築中ニシテ我が守備隊ハ兵力増加ヲ待ツテ之ガ擊碎

ヲ企圖シアリ

(第三項)

其ノ北方椰子林附近ニハ敵屢々攻撃シ來リ特ニ二十六日十四時頃ヨ
リ「ボブダビ」及「ウエルス」ニ對シ山砲八乃至一〇門ヲ有スル約
四〇〇ノ敵攻撃シ來ルモ我が山砲ノ威力大ニシテ之ヲ撃退セリ

第二號

日誌用

秘

電報

七三〇一八三〇發
一一〇六五五〇著
一一〇三五五〇受
〇三五五〇點

益部隊參謀長

通電先 次長 剛 洋 戰教導飛行團 「ラエ」 「サラモア」

猛參電第九號

「剛(洋)」「ラエ」(六根據)宛

二十八日夜「タミ」島(「フイシシユ」南方二〇浬)攻略ニ成功セ

(終)

昭和一八七三



電

報

ハ	ハ	一
ニ	ニ	五
〇	〇	三
六	二	〇
三	〇	七
〇	〇	〇
結	受	著
		發

昭和二八八二

通電先

次長 剛

猛 部 隊 參 謀 長

猛 通電第九八八號

陸軍一中隊海軍若干ハ「バシグ」河口ハ「ラエ」
 「サラモア」中
 附近ニ占領特ニ海上ニ對スル
 「バシグ」附近ニハ敵影ヲ認メズ目下「ブガ」
 「バシグ」河口
 上流ハ「ワエ」方面ハ斥候ヲ以テ搜索中ナリ

終

極秘

電報

八二二
三二二
〇七二
一〇八
〇〇〇
〇〇〇

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八八三

猛參電第二三號

八月一日夕刻迄ノ第五十一師團方面ノ狀況

「神野大隊ノ「ボブダビ」奪回攻撃ハ順調ニ進捗シ大部ハ占領セリ

モ敵ハ尙頑強ナルヲ以テ一日夜更ニ最後ノ攻撃ヲ實施ス

神野大隊長負傷輕傷ナレドモ歩行困難ナリ 又歩兵第六十六聯隊

北中隊ノ陣地間隙ニ進入セル敵ヲ奇襲シ輕機三、自動小銃一、

小銃六ヲ鹵獲ス「一語不明サクヨフ」山（舊「トナブ」山）方面全

線約三十分ノ間敵ノ砲撃アリシノミニテ多少我ガ第一線ヨリ離隔
シアリ 我ガ陣地正面ノ一部ニ「トラクター」ノ爆音ヲシキモノ
ヲ聞キ目下調査中ナリ

(終)

日誌用



電報

源電先 次長 剛

猛參電第一七號

第五十一師團ニ配屬中ノ田中參謀ハ中本參謀ト四日現地ニ於テ交代
セシメラル

一〇〇一
四八七九
猛一四二〇
〇五〇〇
部點受署參
隊參謀長

昭和一八八三

(終)

日誌用

電報

ハニ

一〇七〇〇〇
一五〇〇〇〇
一六〇〇〇〇
一七〇〇〇〇
一八〇〇〇〇
一九〇〇〇〇
二〇〇〇〇〇
二一〇〇〇〇
二二〇〇〇〇
二三〇〇〇〇
二四〇〇〇〇
二五〇〇〇〇
二六〇〇〇〇
二七〇〇〇〇
二八〇〇〇〇
二九〇〇〇〇
三〇〇〇〇〇

昭和一八八三

猛部隊參謀長

通電先 次長 岡

猛電第四號

「フインシュ」方面ニ於ケル敵魚雷艇隊ノ活動ハ依然活潑ニシテ船工兵隊ノ報告ニ依レバ藤本艇隊（歩兵第二百三十八聯隊第九中隊乗艇）ハ二十八日夜「シオ」出發途中敵ノ魚雷艇ト二回遭遇セルモ二十九日一時三十分異狀ナク「スクゲマーク」（「フインシュ」南方一五軒）ニ到着セリト

本方面ニ對スル鰐魚留浜ノ出現ハ最初ノモノニシテ眞否調査ノ要アル
モ、直ホテ報告ス
(終)

0165

162

誌用

電報

ハ	ハ
ニ	ニ
一	一
六	二
三	一
五	〇
點	受
	著
	發

昭和一八八三

猛部隊參謀長

通電先 次長 剛

猛參電第九八六號

最近ニ於ケル「ラム」河沿岸ノ敵情左ノ如ク監視網ハ強化セラレタルガ如シ

七月十七日我ガ斥候ハ「ラム」河ヲ渡河シ來ル敵ノ斥候（米兵一土民兵五）ヲ「ケセワ」（「マダン」南方「ラム」河右岸）ニ於テ奇襲大部ヲ射殺セリ

ニ右ノ戦闘ニ於テ捉ヘタル土民兵ノ隙迹ニ依レバ「ワイムリバ」

(「コロバ」對岸)ニ進入セル敵ハ「X」ニ七聯隊ニ屬スル搜索

隊ニシテ將校ノ指揮スル米兵一三、土民兵一〇ナリ

「ウェイサ」(「ワイムリバ」南方十軒)ノ敵兵力約二〇名内外ニ

シテ所々ニ移動シアルモノノ如ク「ハサン」(「ワイムリバ」南

南東二〇軒)附近ニハ米兵力四〇ナリト認メラル

「ペナベナ」部隊最高指揮官ハ「マスターネーリ」次級「マスタ

ー」ジエーシ」ナリト「ペナベナ」ニハ地下ニ兵舎(?)アリ

大砲(一〇名)ニテ運搬)高射砲若干アリ「カイナンツ」ニハ大ナ

ル砲ヲ見ズ

ニ在「マラワサ」森、定搜索隊ノ偵察ニ依レバ

不

(イ)「リボナ」へ「トンプ」南方へ〇軒ニハ七月二十日頃新ニ敵兵一ハLGニヲ有スニ進入ス

「オホガニナ」へ「リボナ」東南約一〇軒ニ前面ニ敵兵六ハLG一ヲ有ス

「コウラリナ」へ「リボナ」西南約五軒ニ敵兵二ハ砲一門輕機一無線機ヲ有スアリ

(ロ)「カイナシツ」ニ對スル地上ヨリノ補給ハ毎日「オンガ」方面ヨリ實施シ英兵二乃至三名多キ場合ハ〇名位ニテ運搬シアリ

(ハ)「ヨキ」ハ「カイナシツ」東方へ〇軒ニ西方高地ニハ七月初旬監視兵約一〇名配置セルモノノ如シ

四 在「クラホシ」ハ「マダン」西南五〇軒ニ長友警備隊ノ偵察ニ依

レバ

(イ)「グエビ」(「ブンジ」西北約二五軒)ニハ米兵三土民兵ニア

リ糧秣ハ「ブンジ」ヨリ購買シアリ

(ロ)「ブンジ」ニハ白人兵一〇、土民兵若干アリ

小銃ノ外、自動小銃 G 無線機ヲ有ス

(ハ)「ヤリヤアワイ」ハ「アアイター」西方約一〇軒)ニハ米兵三

土民兵五アリテ小銃八 自動小銃一ヲ有シアリ

ニ「アブツマ」ハ「アテンブル」對岸)ニ於テ米兵五使役セザレテ

リタル土人兵九四 米兵七名 土民兵三〇活躍アリシモ土民兵ハ

日本軍ノ近接ト米兵ノ酷便ニ依リ「ボギヤ」方向ニ逃走セリ(本

土人モ逃走者ノ一人ナリ)

(終)



電報

通電先 次長 剛

猛參電第三七號

在「マラワサ」森定隊偵諜ニ依テ敵ハ「カイナンツ」東西ノ高地
森林中ニ兵舎約二〇棟、分散配置ヲ以テ新築中ニシテ現在ノ所未ダ
使用シアラザルモノ如シ

八四一〇九三〇〇發
八四一〇九三〇〇著
一三〇二〇〇受
四二五〇〇購

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八八四

(終)

至急極秘親展

日誌用

電報

其
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

昭和十八年八月

猛 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 剛 洋 戰

猛參電第六三號

現情勢竝ニ我ガ兵力補給狀況等ニ鑑ミ軍司令官ハ左ノ如ク決心

セラレタルニ付取敢ズ報告(通報)ス

決心(八月一日)

「軍ハ「ラサ」地區及「フィンシュ」地區ヲ絶對ニ確保スル

ト共ニ昭和十八年末ヲ目標トシ堅忍不拔軍主力ノ積極作戦實

施ニ必要ナル諸要素即チ兵力資材ノ推進、整備及陸上交通路

ノ啓開擴、大等ヲ強行概成シ爾後速カニ作戰ノ主動權ヲ握リ

「ペナペナー」「カイナンツ」臺地ニ立脚地ヲ確立シ更ニ機ヲ

見テ「マーカム」河孟又ハ「フオン」河沿岸ニ於テ決戦ヲ企

圖ス

特ニ飛行第七十四戰隊ハ「ペナペナー」「カイナンツ」臺地ヲ

攻略スベキ場合アルヲ豫期シ又「セビツク」河東方ニ優位ヲ

先制シ該方面ニ於ケル主動權ヲ確保ス

説明

「ベナベナ」方面ノ攻略ハ可及的迅速ヲ要スルモ之ガ所要ノ兵力ハ直接攻勢兵力三千「マラワサ」方面ノ掩護兵力一千トスルモ後方ノ擔送兵力ヲ合シ實働兵力ハ三萬ニシテ新戰略兵團ノ大部ヲモ擔送ニ充當シ辛クモ「ベナベナ」飛行場羣ノ單獨攻略ヲ可能ナラシムルモ作戰目的ノ一部ヲ達成シ得ルニ過ギズ爾後ノ作戰進展ハ更ニ兵力一萬ヲ以テ少クモ「マラワサ」附近ニ到リ自動車道ヲ概成後（來春四月頃）ニ於テ初メテ可能ニシテ而モ此ノ間ノ狀況ニ應ズル「マトカム」河谷及「フィンシュ」方面ノ作戰ニハ兵力増加ノ餘裕ナシ

ニ「フィンシュ」附近ノ確保ハ方面軍全般ヨリスルモ軍爾後ノ作戰

指導上ヨリモ最モ速カニ之ガ絶對的確保ヲ要スルニ拘ラズ現在何
等見ルベキ處置ヲ講ゼラレアラザルヲ以テ先ヅ之ガ緊急確保ヲ要
シ而モ狀況ノ推移ハ近キ將來此ノ方面ニ軍ハ主決戰ヲ豫期スルヲ
要ス

右ノ如キヲ以テ軍ハ取敢ズ「ヲ・サ」「アイジシユ」地區ノ確保
ヲ當面ノ第一要件トシ「ベナベナ」作戰ノ企圖ハ依然之ヲ堅持ス
ルモ之ガ即急ナル實施ヲ避ケ此ノ間諸般ノ施策ヲ極力強行準備シ
兵力ノ餘裕ヲ得タル後一舉ニ之ヲ決行ス

(終)

第二課

日誌

電報
次長宛

猛部隊參謀長
八三一四〇〇發
八四〇〇五〇發
一六三〇〇點受

猛參電第三六號

七月二十三日ヨリ七月三十一日ノ間「サラモア」附近ノ戰團ニ於ケル兵力減耗左ノ如シ

- (1) 戦死八三 戦傷入院二四九
- (2) 野戦病院入院 一五一 (内戦病死一六)
- (3) 總計 四八三 一日平均五四名

主トシテ七月中ニ於ケル第五十一師團ノ兵力損耗總計

Relativation

昭和一八八五

(1) 戦死 四六六 戦傷 四六九 (内戦傷死一〇)

(2) 戦病入院 六一九 (内戦病死 二六)

(3) 総計 一、五五四 一日平均五〇人強

(4) 増加兵力 (「ラエ」以東ヨリ輸送セルモノ)

九五五名 差引四六九名ノ減少ナリ

(註、差引数合ハザルモ覽文上ニハ誤ナシ)

599

(終)

173

0176

第三編

日誌用

秘

電報
次長宛
猛參電第七三號

八四一
四二二
四一五
六四〇
四四〇
〇〇〇
點受著發

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八八五

八月一日基兵團方面ノ狀況左ノ如シ

一「サラモア」

夜半ヨリ未明ニ至ル迄終日斷續的ニ敵ノ砲兵射撃ヲ受ク

二八時三十分ヨリ十二時ニ亘リ「ボーイング」八 「コンソリー」

二六 「ノースアメリカン」二 「P一三八」二 「P一四〇」

一六ノ爆撃ヲ受ケ損害目下調査中ナリ 相當アル見込
三 第一線方面ハ通信不能詳報ニ接セズ

(終)

175

0178

日誌用

極秘

電報

次長宛

猛參電第五三號

三	一	九	三	〇
四	一	四	四	〇
二	一	四	六	〇
四	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇

點受著發

猛部隊參謀長

昭和一八八五

0179

八月一日神野大隊ノ奮戦ニ依リ「ボブダビ」ヲ奪回セルモ状況輕視ヲ許サズ

歩兵第二百三十八聯隊第三大隊ノ「サラモア」進出ヲ待チテ「ズ」方面米軍ヲ反撃スベク企圖シアルモ目下ノ所約一八〇名到着セルノミニシテ殘部約三七〇名ハ概ネ「フィッシュ」地區ニ滞留シアリ連日ノ空襲ニ依リ舟艇ノ損耗甚ダシキモ極力之ガ促進ヲ期ス

(終)

176



日誌用

極秘

昭和一八八共

電報

八四二一五三〇發
八一五一四〇〇受

次長宛

猛部隊參謀長

猛參電第七四號(未完ナルヤモ知レザルモ一應提出ス)

「ツルブ」ニ於ケル二日夜ノ驅逐艦ノ揚陸作業ハ敵機ノ投彈ヲ

受ケタルモ損害ナク順調ニ進捗ス

歩兵第百十五聯隊三九九名、砲兵第十四聯隊一〇一名、第二十六

飛行場中隊八〇〇名、隊屬貨物約五〇〇ノ揚陸ニ成功セリ

(終)

日誌用



A

電報

通電先 次長 剛

猛參電第一一號

六	六	六	五
二	一	一	二
三	二	〇	二
四	〇	五	四
〇	〇	六	〇
點	受	著	發

猛部隊參謀長

昭和一八八七

第四十一師團青木中尉ノ偵察セル「ドーフア」河ノ狀況左ノ如シ

「アサグムツト」(「セビツク」本流トノ合流點ヨリ約六〇

杆上流)迄ハ河幅一〇〇乃至一二〇米ニシテ同地附近迄小型漁

船竝ニ大變ノ夜間航行支障ナシ

「アサグヨリツト」ヨリ南方一七杆分岐點迄ハ河幅概ネ下流ト

同ジキモ晴天ノ時ハ河面ニ岩石露出シ又樹木アリ漁船ノ航行困難ナリ

大發ハ壺間特別ナル考慮ヲ拂ヘバ航行可能ナランモ各所ノ急流ナル所アリ増水時ハ相當困難ト判斷セラレ水深ニ乃至三米?

前記分岐點ヨリ上流ハ未偵察ナルモ舟艇ノ遡航困難ナルモノノ如ク折疊舟ナラバ可能ナラン

(終)

179

0182

第三報

日誌用

極秘

電報

總長宛

猛參電第一一七號

八六二二四〇	發
八六一〇二〇	著
八六一二〇〇	受
八六一七〇〇	點

猛部 段長

昭和一八八七

第五十一師口大場挺進隊（歩兵第百二聯隊第三大隊）ハ八日十二時
 三又路峠（「タンブ」山東側）ヲ出發「ガター」以南「サルス」湖以
 北ノ敵砲兵ニ挺進肉薄攻撃ヲ實施スル豫定
 （終）



電報

次長宛

猛參電第一二六號

八六

猛	二	二	一	一
部	三	〇	九	四
隊	三	三	二	二
參	〇	五	〇	〇
謀	點	點	著	發
長				

昭和一八八七

「サラモア」方面八月四日夜迄ノ狀況左ノ如シ

「カミアタム」方面

四日朝來第一陣地、前進陣地ニ對スル敵ノ砲撃後約五〇〇ノ敵三方向ヨリ攻撃シ來ルモ十六時五分擊退陣地前六十米ニテ對峙中

武勇山ハ殆ド終日敵ノ攻撃ヲ受ク

「ドゾダビ」方面

四日黎明時野大隊主力ハ「ヤシ」高地北方ヨリ突入シ主ナル陣地
中央部ヲ奪取セシモ三方面ヨリ集中火ヲ受ケ後退ノ止ムナキニ
ル 五日總兵ノ勦力ノ下ニ攻勢再興ノ決定 「ナムリング」
エルス」ハ殆ド終日敵ノ砲撃ヲ受ク

【オモ】方面ニ對シテ日寇ノ進軍ハ緩慢ニシテ察察ナシ (終)



目誌用



電 報

六 六
七 六
〇 三 一
〇 三 九 四
三 五 一 三
〇 〇 五 〇
貼 受 符 發

送 部 隊 參 謀 長

道 電 先 次 長 閣

機 密 文 字 二 三 四 號

陸 部 隊 長 ハ 「 ツ ル ン 」 及 「 サ ラ モ ア 」 ニ 概 圖 用 令 所 ラ 途 道 中 ノ 所

六 日 朝 越 嶺 山 ヲ 陣 地 ヲ リ

(終)

昭 和 一 八 八 七

同誌用

電報

八六二〇五〇發
八六〇八〇五著
八六〇九三〇受
一七〇〇點

昭和一八八七

猛 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 剛 洋戰司令部 教導飛行團

猛參電第一〇七號

八月五日八時五十分ヨリ約三十分間「B-125」「P-38」約三
〇機内外ノ編隊ハ「フンガイア」「マダン」「アレキス」間ヲ重
層セルモ損害輕微ナリ 敵機三機墜ス（内一機不確實）一機ハ
「ボガジム」海上ノ「マダン」「リオ」附近ニ墜落セリ
被害状況左ノ如シ

「エレマ?」機橋一部損傷「ナガタ」輕傷「アレキシス?」
「ガソリ」五鐘炎上飛行場被害ナシ
(終)

0188

185



日誌用

電報
次長宛

六六二九二
八八三〇
九九三〇
一〇三〇
猛部隊參謀長
部點受著發

猛參電第一四七號

四日基兵團「サラモア」方面戦況左ノ如シ

一八時ヨリ十三時ニ亘ル間「ロカシ」正面ノ敵ハ神野大隊陣地ニ對

シ山砲及重迫撃砲ヲ以テ熾烈ナル射撃ヲ實施ス

十四時頃約百名攻撃シ來リシモ交戦一時間ニシテ之ヲ撃退セリ

ニ敵ノ遺棄死體八

我方損害

昭和一八八八

戦死三 負傷一 重機輕機各一

砲彈ニ依リ破壊サレ

(終)

801

187

0190

至急秘

電報

通電先 剛 (第二船船團)

筑波 (和田大尉)

猛部隊參謀長

參 考 次 長

猛參電中へ上流再電

當軍方面ノ火發ハ「リフ」等ニ依リ船底ニ亀裂ヲ生シアル

モノ過半ニ及ブ從ツテ鎔接用酸素ニ依リ大部ノ修理可

能ニシテ既ニ再三再四之ガ追送要求セルモ未ダ到着セザル

ノミナラス何等ノ回答ニ接セズ

昭一八八八

八七ニ一六ニ〇〇發
ニ〇三ニ〇〇受
ニ三三至點

緊急非常手段ニ依リ至急追送アリ度

最近敵機ノ被害ニ依リ特ニ然リトス 輸送能否至急返

(終)

第二種

誌用

札

電報
次長宛

猛參電第一八三號

八八二二
九〇三二
一〇九一
四一〇〇
五〇〇〇
點受著發

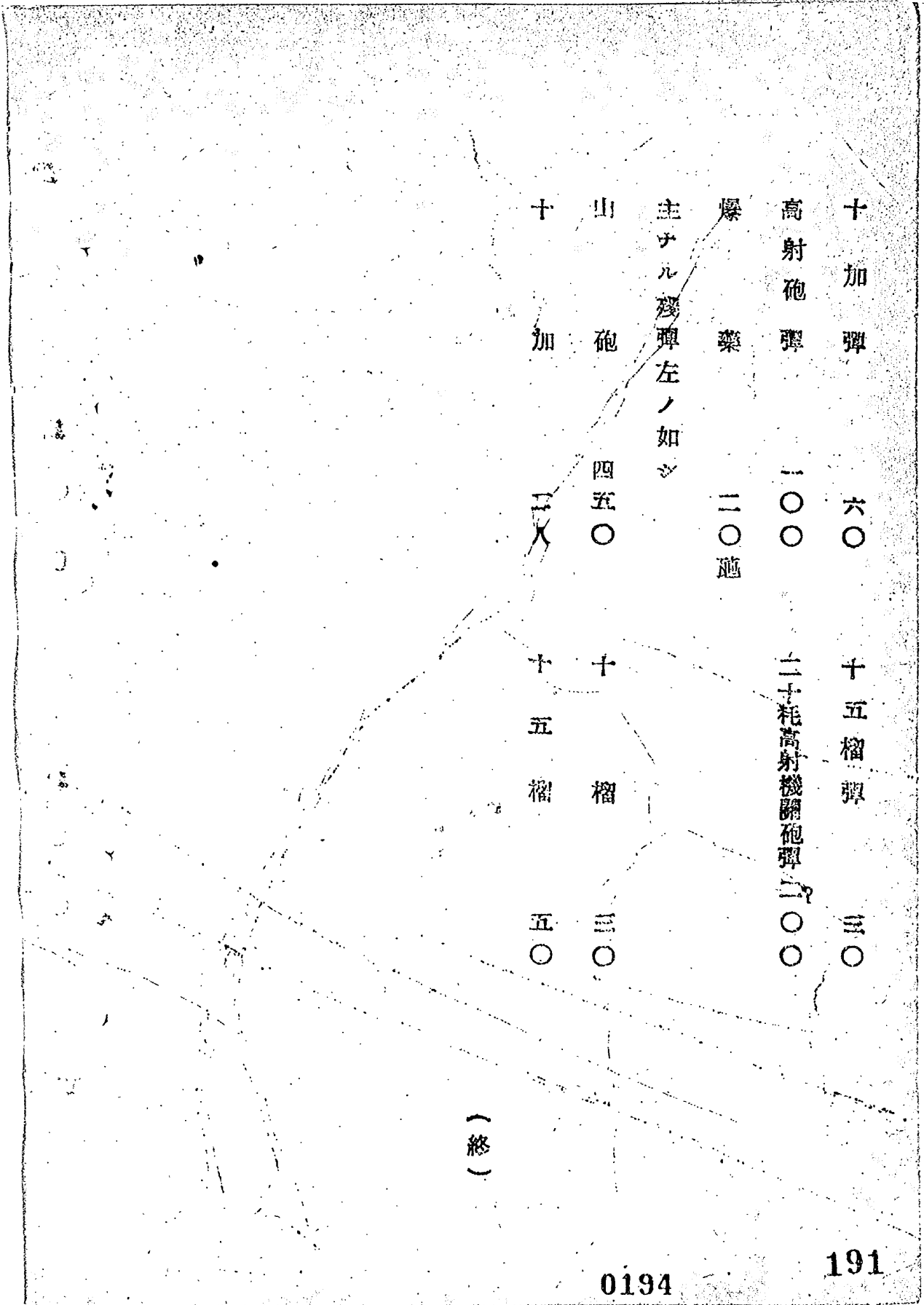
猛部隊參謀長

昭和一八八九

七月二十九日ヨリ八月四日迄ノ基兵團「ツラモア」地區ノ射耗彈數

左ノ如シ

小銃實砲	二〇箱	機關銃彈藥	四〇箱
重擲彈筒彈藥	二二〇〇	手榴彈	六四〇
大隊砲彈	六〇	山砲彈藥	一一〇
迫撃砲彈	八〇	十榴彈	八〇



0194

191



電

報

八

八二一四〇
六〇三二〇
六〇三二〇
六〇三二〇
六〇三二〇
六〇三二〇

猛

部

隊

長

昭和一八八〇

通電先 部長 大臣

猛参電第一七七號

御懇電ニ接シ深謝ニ堪ヘズ軍ハ速カニ「ラエ」方面ノ戦力ヲ増強ス
ルト共ニ愈々志氣ヲ作興シ任務完遂ニ邁進センコトヲ期ス

(終)

「ボグダビ」方面神野大隊ノ攻撃ハ順調ニ進涉中
彈藥不良多ク特ニ手榴彈ハ五〇發中發火セルモノニ發ノミナリ

(以下未著)

第三報

日誌用



電報

次長宛

參電第一九一號

八、九、昭

參謀部 參謀長

八月八日現在ノサラモア地区ノ戦況

其ノ後一般ニ大ニ変化ナシ

一、ボブダビ方面

ヤシ高地ハ六日七日兩日ニ亘リ約五〇發ノ砲

撃ヲ受ク

ニ「ガミアタム」方面

七日五時長谷川中尉以下一六名ハ「タンブ」山正面ノ

我が前進陣地ニ前ニ陣地ヲ構築中ノ敵約一〇〇名ヲ

急襲シ完全ニ之ヲ撃退セリ

遺棄死體八鹵獲品輕機一自動小銃三

同彈藥五六〇子榴彈一六

我が方戦死一負傷二（長谷川中尉輕傷）

次デ我が前進陣地ノ一部ニ敵攻撃シ來ルモ之ヲ撃

退ス

三、ロカン方面

六日十七時三十分頃砲撃掩護ノトニ小數ノ敵右翼ニ來襲セルモ直チニ撃退ス

右ロカン附近ノ敵揚陸ハ依然活潑ナリ

四、サラモアハ連日敵ノ砲撃ヲ受ケアリ

五、當方面ハ數日來殆ド降雨ナリ

終

第二報

秘

電

報

一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十

昭和一八八一

猛 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 剛 河 第三野戦隊司令

猛參電第三三〇號

基兵團「サラモア」地區ニ於ケル五月以來ノ綜合戦果左ノ如シ

遺棄死體(確認セルモノノミ) 六〇七

鹵獲品

迫撃砲 五 同 彈 二〇〇

輕機 九 同 彈 八〇〇〇

自動小銃	一三二	同	彈	八六七〇
小銃	三七	小銃彈藥	一三六七三	
拳銃	六	手榴彈	五〇六	
信號彈	一四五	電話機	三	
無線機	一			
飛行機擊墜	一三			

(内不確實八)

其ノ他被服遺跡

(終)



日誌用



昭和一八八二

電報	ハ	一	一	一	一	一	一	一	一
次長宛	一	一	一	一	一	一	一	一	一
猛部隊參謀長	一	一	一	一	一	一	一	一	一
點受著發	一	一	一	一	一	一	一	一	一

猛部隊第二四四號

「ラサ」は於テ敵ニ與ヘタル損害ニ就テハ前電第二三〇號ノ如キモ

之ヲ基礎トシ當部ニ於テ内輪ニ推定セル戦果左ノ如シ

一戰 死約一、二〇〇（一語不明 數ノ約二倍）

一戰 傷約一五〇〇（戰死ノ約一、二倍我方ノ統計ニ依ル）

一戰 死傷合計約二七〇〇

四右ノ外戰死傷者ト略々同數ノ戰病變死放棄者アリ（脱）

（終）